

C-3 衣服の開口諸形態が人体におよぼす影響について—上向開口・水平開口—
東京学芸大 中橋美智子 湘北短大 O 酒井文子

目的 本実験は、外気環境気温の変化による体熱の産生・放散のために着用する衣服の諸形態が人体におよぼす影響について明らかにし、その一方法として人体着用実験を行なったのでその結果を報告する。

方法 環境条件：低気温（10℃）、中等気温（20℃）、高気温（30℃）

実験項目：皮膚温、衣服気候、衣服下湿度、体温、発汗量。

開口形態：(1)衿 低気温・中等気温の場合---Vネック・タートルネック、高気温---スクエアネック・スタンドカラー (2)袖 高気温---ノースリーブ・フレアースリーブ・パフスリーブ

更に低気温においては有風・無風時における比較、高気温ではレース風フラウス着装による実験も試みた。

結果 低気温・高気温における開口形態による皮膚温の差は、特に開口部付近において顕著にあらわれ、有風時では更にその差は大きくなる。レース風衣服は体熱の放散・発汗作用に対しかなり有効な形態である。今回の実験により防寒・防暑に対する衣服形態による気候調節の重要性が実証された。